

イマチャレ

全国の子どもたちが求める 文化・スポーツ活動とは何か？

— イマチャレ3万人アンケートの結果から —

イマチャレ製作委員会



イマチャレ

大人だけでは
決めない！
部活動の地域移行

まずは
子どもたちにとっての理想のスポーツ・文化環境を考えるアンケート
から始めてみませんか？

2023年度から中学校の休日の運動部活動の段階的な地域移行が始まります。全国の自治体や学校現場は「地域移行」に向けて、様々な環境を整備し、子どもたち一人一人に応じた多様なスポーツ環境・教育環境を実現していかなければなりません。そのためには、当事者である子どもたちが一緒に参加し、部活動の未来を創っていくことが大切です。

2023年4月1日より子ども基本法（※）が施行される今だからこそ、子供たちの視線にたった部活動改革をもう一度考えてみてはいかがでしょうか。イマチャレは全国の自治体に「子どもたちにとっての理想のスポーツ・文化環境を考えるアンケート」を無料で提供しています。

イマチャレとは

これからの「学校・スポーツ」を 皆で創っていくための情報プラットフォーム

後援：
スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

① 議題の提起 (ジャーナル)



② 実践的な協議 (オンライン・コンベンション)



③ 自治体との共創 (チャレンジシティ)



「3,000」を越える学校・行政・地域クラブの皆様にご登録・ご参加を頂いております。

アンケート実施の目的

**当事者である「子どもたちの声」を丁寧に拾いあげ、
子どもたちの視点に立って理想の文化・スポーツ環境を実現していく。**

2023年度から、部活動の改革推進期間がスタートしました。私たちは、新しい時代に向けて、今までの部活動の枠組みを見直し、理想的な文化・スポーツ環境を築く使命を担っています。

こども基本法（※）が2023年4月1日から施行され、部活動改革においてもその理念に基づき、子どもたちの声や主体性が尊重され、子どもたち一人ひとりの個性や志向に合わせた多様な環境を構築することが大切です。

具体的なステップとして重要なのは「当事者である子どもたちの声を丁寧に拾いあげてくこと」です。私たちイマチャレは、2023年度に全国の18自治体と連携しアンケートを実施し、生徒23,088名（教職員1,261名、保護者7,589名）の声をまとめました。これらの声が、今後の部活動改革を進める上での重要な基盤となると考えています。

（※） こども基本法は子どもの権利条約の4つの一般原則を基本理念に掲げています。

- 1.生命、生存及び発達に対する権利（命を守られ成長できること）
- 2.子どもの最善の利益（子どもにとって最もよいこと）
- 3.子どもの意見の尊重（意見を表明し参加できること）
- 4.差別の禁止（差別のないこと）

「イマチャレアンケート」の発表を実施するにあたり

新たな文化・スポーツ環境を創り出していく活動には
明確な答えはなく、各地で試行錯誤が続けられています。

だからこそ

子どもたちが今、何を感じているか、
先生や保護者は何を感じているか、
を明らかにしてから進めることが重要です。

今後はアンケートの内容やヒアリング方法も都度アップデートし
規模も拡大して参りますが、本日はその第一弾として
現場アンケートの報告と提言を共有致します。

調査結果 | アウトライン

目次	P 5
1. はじめに	P 2
1. イマチャレとは	
2. アンケート実施の目的	
3. 調査方法・データ概要	
2. 【概要Ⅰ】子どもたちの部活動における現状について	P 7
1. 部活動の地域移行に関する子どもの認知度について	
2. 現在の部活動等における活動実態（時間・日数）について	
3. 子どもたちの部活動に対する主体性について	
4. 子どもたちの文化・スポーツ活動に対するニーズについて	
5. 子どもたちの地域活動への意欲について	
3. 【概要Ⅱ】教職員・保護者が考える部活動の地域移行	P 39
1. 教職員のアンケート結果	
2. 保護者のアンケート結果	
3. 生徒・保護者・教員の回答比較	
4. 【概要Ⅲ】部活動改革に向けた今後の提言・メッセージ	P 50
1. 全体に向けた提言	
2. 自治体・教育委員会へのメッセージ	
3. 学校・教職員へのメッセージ	
4. 団体及び地域の方へのメッセージ	
5. 保護者へのメッセージ	
6. 子どもたちへのメッセージ	

調査方法・データ概要

■ 期間：2023年7～10月

■ 対象：中学1～3年生

■ 全国データ数：

生徒23,088名、教員1,261名、保護者7,589名

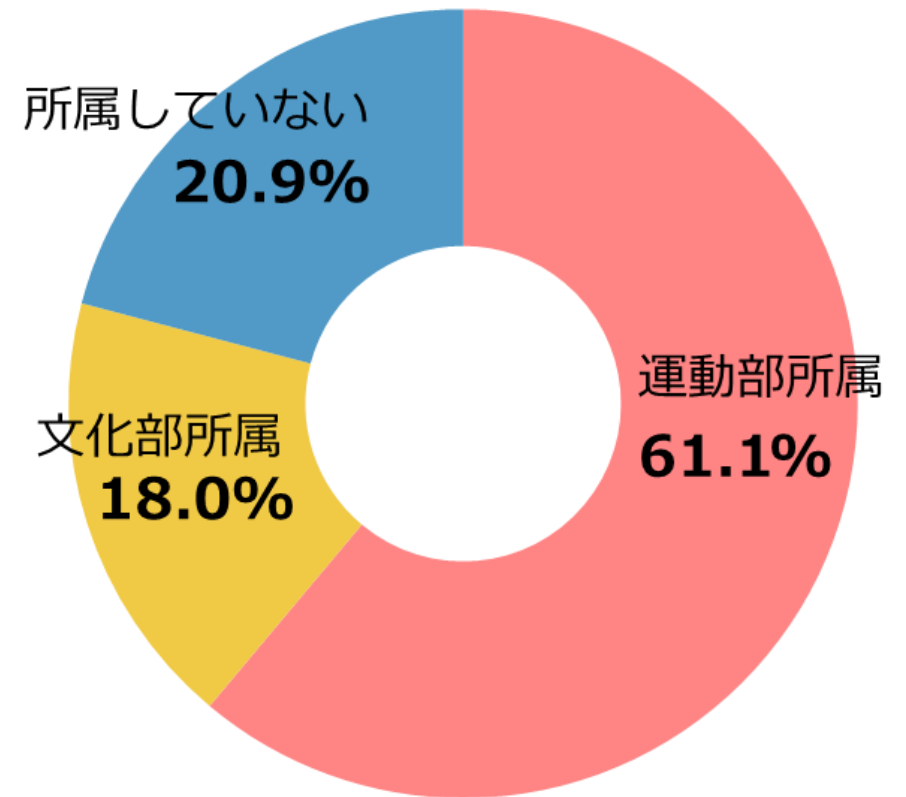
■ 参加自治体 ※五十音順

石岡市（茨城県）、岩倉市（愛知県）、茨城町（茨城県）、
大津町（熊本県）、加賀市（石川県）、掛川市（静岡県）、
京丹波町（京都府）、黒潮町（高知県）、白井市（千葉県）、
垂水市（鹿児島県）、北谷町（沖縄県）、富谷市（宮城県）、
名護市（沖縄県）、姫路市（兵庫県）、真岡市（栃木県）、
宮崎市（宮崎県）、読谷村（沖縄県）、他1自治体

※ 各自治体で調査を実施し、匿名化したデータを取得

※ サンプル数の単位は人

※一部データに関して、四捨五入の関係で計算結果に0.1%ほどの誤差がある場合があります。



イマチャレアンケート調査結果【概要Ⅰ】

【1】子どもたちの部活動における現状について

1. 部活動の地域移行に関する子どもたちの認知度について
2. 現在の部活動等における活動実態（時間・日数）について
3. 子どもたちの部活動に対する主体性について
4. 子どもたちの文化・スポーツ活動に対するニーズについて
5. 子どもたちの地域活動への意欲について

イマチャレアンケート調査結果1-1.

部活動の地域移行に関する 子どもたちの認知度について

1-1. 部活動の地域移行に関する子どもの認知度について

質問の意図

部活動の地域移行に関して、当事者である子どもたちの意見を尊重しながら議論を進めるべきと考えるが、

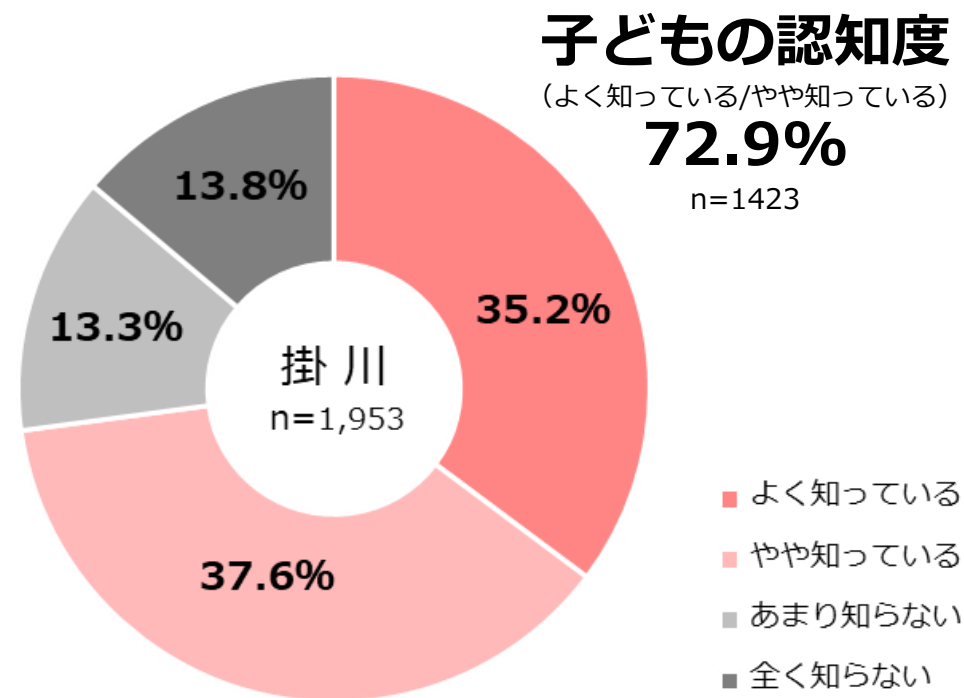
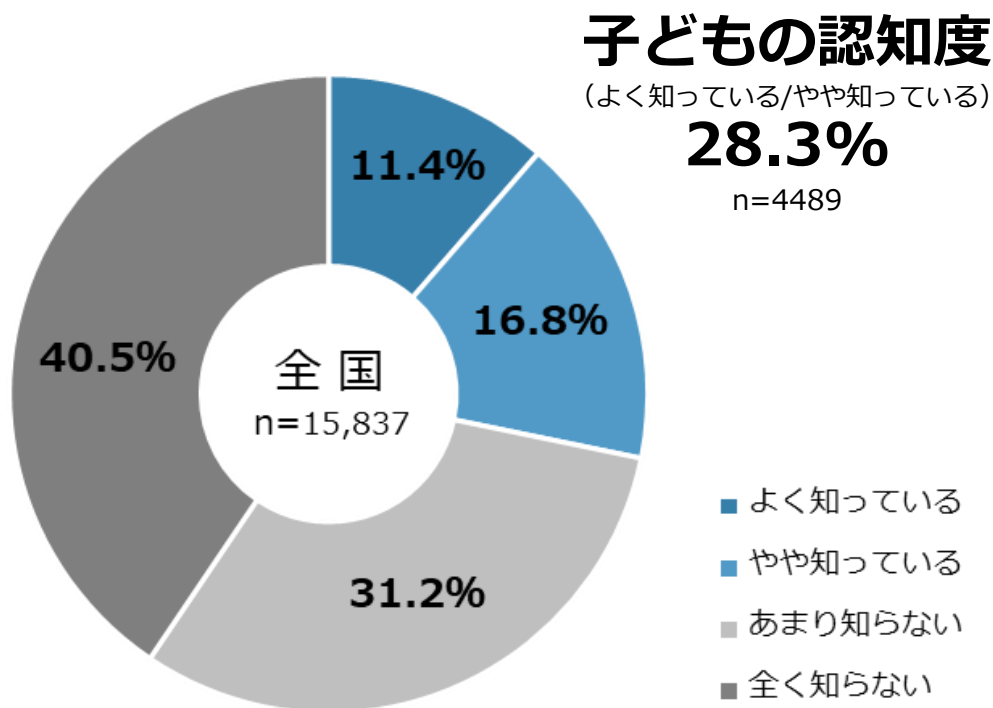
そもそも、どのくらいの子どもたちが「部活動の地域移行」のことを知っているのだろうか？

1-1の発表データ

- ・ 部活動地域移行に関する子どもの認知度
- ・ 静岡県掛川市の取り組み紹介

1-1. 部活動の地域移行に関する子どもの認知度について

Q. スポーツ庁・文化庁では、休日（土日、祝日）の部活動の地域移行を令和7年度末までに推進しています。そのことについて知っていますか？



部活動改革が推進されていることをよく知っている・やや知っていると回答した生徒は**28.3%**。全国的な認知度はまだ低い状況。
一方で、改革が進んでいる静岡県掛川市では**72.9%**の生徒の認知がある。

【参考】先進地域における広報の取り組み：静岡県掛川市

掛川市ではなぜ生徒の認知度が高いのか。部活動改革が進んでいる静岡県掛川市では、教育委員会を中心に以下の取り組みを行ってきた。上記のアンケート結果は地道で多様な広報の積み重ねであることが分かる。

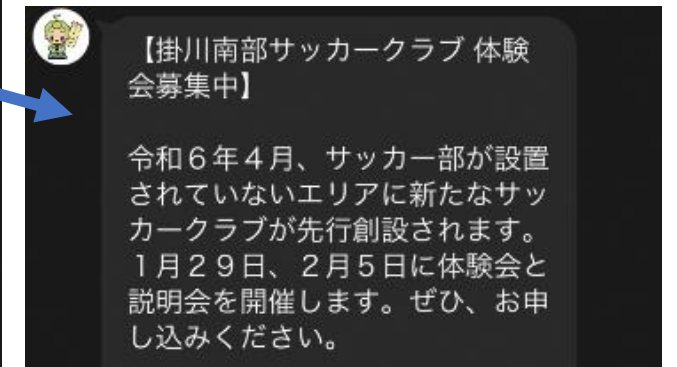
<掛川市の広報の取り組み>

- ①掛川市のホームページでの情報掲載
- ②1人1台端末を使用した児童・生徒への広報（改革情報をiPadからすぐに閲覧可能に）
- ③保護者一斉メール配信システムの活用
- ④中学校新入生説明会への参加、説明（市内全9中学校にて担当課が参加し、説明）
- ⑤地域のテレビや新聞などへの積極的な報道提供
- ⑥掛川市公式LINEの活用（改革情報や新クラブ創設の広報）

②1人1台端末を使用した児童・生徒への広報



⑥掛川市公式LINEの活用



イマチャレアンケート調査結果1-2.

**現在の部活動等における
活動実態（時間・日数）について**

1-2. 現在の部活動等における活動実態（時間・日数）について

質問の意図

今後の子どもたちの文化・スポーツ環境の在り方を考えるためには、まず現在の生活の実態を把握する必要がある。
子どもたちは部活動やその他の習い事などに関して、どれだけの時間・日数を費やしているのだろうか？

1-2の発表データ

- ・ 部活動の平均日数（運動部・文化部）と平均時間数に関するデータ
- ・ 部活動以外の習い事に関するデータ
- ・ 部活動と習い事の年間活動時間数に関するデータ

1-2. 現在の部活動等における活動実態（時間・日数）について

■ 部活動の日数・時間

	運動部(n=13,663)		文化部(n=4,163)	
	平日	休日	平日	休日
日数	4.0日 / 週	1.1日 / 週	3.5日 / 週	0.6日 / 週
時間	1h 58min / 回	2h40min / 回	1h 48min / 回	1h37min / 回
総時間数	486h / 年		333h / 年	

※ 年45週で計算、総授業時間数は845h

※注) 時間は下記選択形式で回答してもらった上で平均時間としており3時間以上は3時間として計算しています。

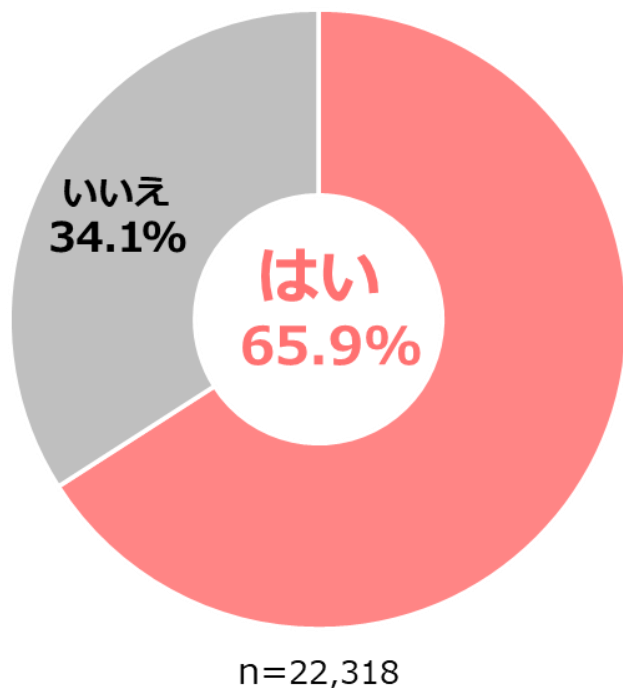
Q. 1日あたりの平均的な部活動の時間を教えてください。(平日・休日それぞれの時間を回答)

①30分程度 ②1時間程度 ③1時間30分程度 ④2時間程度 ⑤2時間30分程度 ⑥3時間以上

1-2. 現在の部活動等における活動実態（時間・日数）について

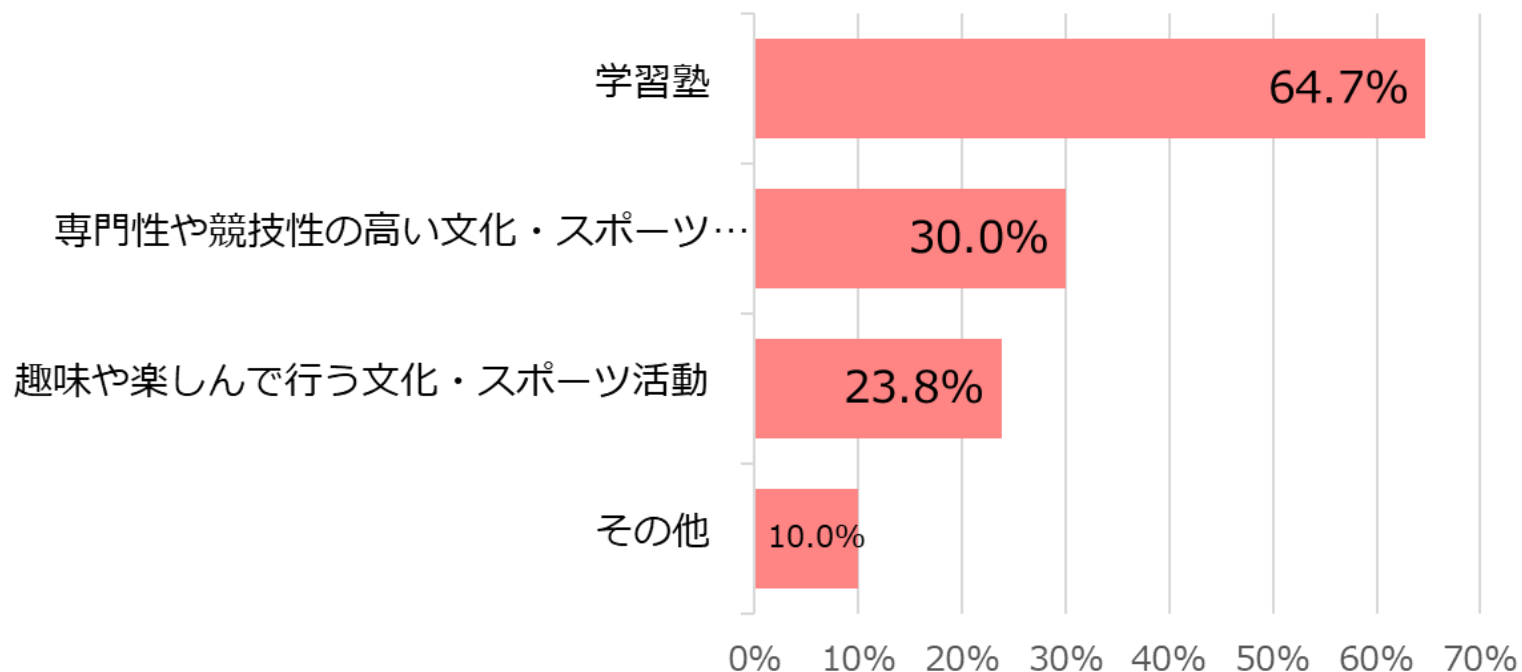
■ 学校以外の習い事（塾やスポーツ活動）

Q. 学習塾やスポーツ活動、
習い事などに通っていますか？



Q. どんな習い事をしていますか？ (n=14,714)

※複数選択可



習い事などに通っている生徒は65.9%
そのうち、もっとも多い習い事は「学習塾」で64.7%

1-2. 現在の部活動等における活動実態（時間・日数）について

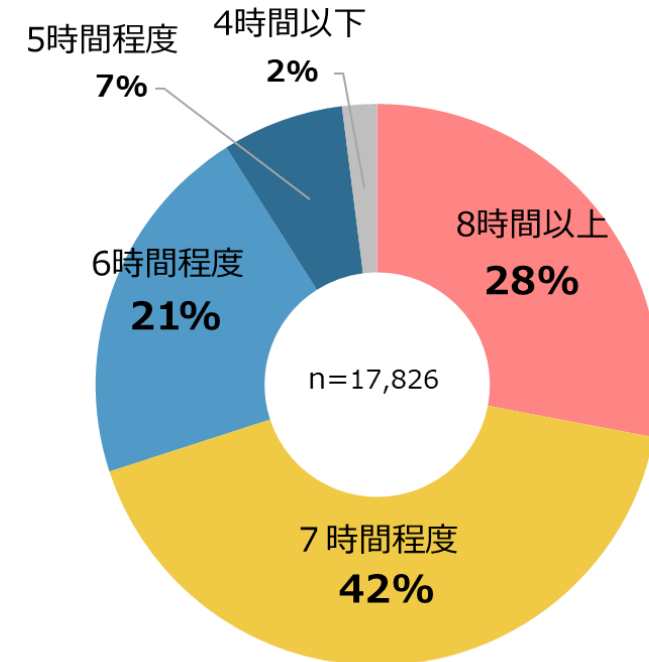
■ 学校以外の習い事（学習塾・地域クラブ等）の日数・時間、及び睡眠時間

習い事

	平日	休日
日数	2.5日 / 週	0.8日 / 週
時間	1h 51min / 回	1h28min / 回
総時間数	258h / 年	

※ 年45週で計算、総授業時間数は845h

睡眠時間



推奨：8h30min

※注) 時間は下記選択形式で回答してもらった上で平均時間としており3時間以上は3時間として計算しています。「うつ・不安」リスクが最も低い (SLEEP; Ojio et al., 2016)

Q. 1日あたりの平均的な部活動の時間を教えてください。(平日・休日それぞれの時間を回答)

①30分程度 ②1時間程度 ③1時間30分程度 ④2時間程度 ⑤2時間30分程度 ⑥3時間以上

1-2. 現在の部活動等における活動実態（時間・日数）について

本アンケート調査での回答を元に概算で計算した年間活動時間数

■ 部活動の年間活動時間数

※ 中学校の標準授業時数は1015（約845時間）
※ 授業時数の一単位時間は50分

運動部 = **486h / 年**

文化部 = **333h / 年**

■ 学校以外の習い事（学習塾・地域クラブ等）の年間活動時間数

258h / 年

運動部 + 学校以外の習い事の年間活動時間数は

486h / 年 + **258h / 年** = **744h / 年**

子どもたちは年間の授業時間数に近い時間を、
運動部では部活動や習い事に割いており、
現在の活動量が適正かどうかを再考する必要がある。

イマチャレアンケート調査結果1-3.

**子どもたちの部活動に
対する主体性について**

1-3. 子どもたちの部活動に対する主体性について

質問の意図

部活動は現在の学習指導要領上は「生徒の自主的な活動、自発的な参加により行われる」と明記されている。

果たして、現在の部活動は子どもたちの主体性を尊重できているのだろうか？
また、子どもたちは主体性を発揮したいと思っているのだろうか？

1-3の発表データ

- ・ 現状の部活動の主体的な取り組みに関するデータ
- ・ これからの部活動の主体的な取り組みに関するデータ

1-3. 子どもたちの部活動に対する主体性について

主体性に関する2つの質問

① 現状の部活動への主体的取り組みについての質問

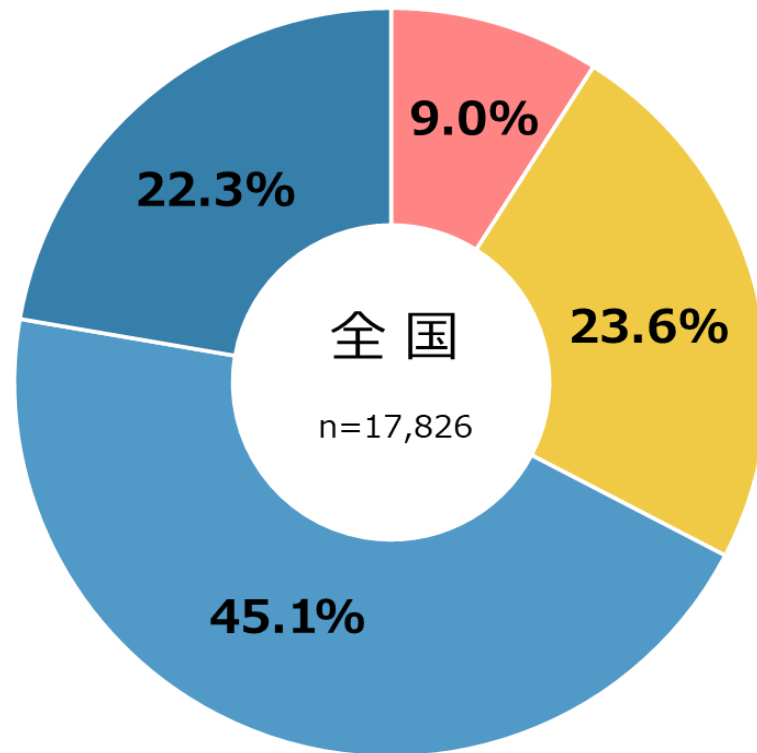
Q. **現在**、練習の時間や内容、試合のメンバーなど自分たち（生徒同士）で決めていることはありますか？

② これからの部活動への主体的取り組みについての質問

Q. 練習時間や内容、試合のメンバーなど部活動において自分たち（生徒同士）で決めたいと思いますか？

1-3. 子どもたちの部活動における主体性①現状

Q. **現在**、練習の時間や内容、試合のメンバーなど、自分たち（生徒同士）で**決めている**ことはありますか？



■ ほとんど全部、自分たちで決めている ■ 半分程度は、自分たちで決めている
■ 一部は、自分たちで決めている ■ 全く、自分たちで決めていない

ほとんど全部、自分たちで決めている
9.0% (n=1,609)

半分程度は、自分たちで決めている
23.6% (n=4,211)

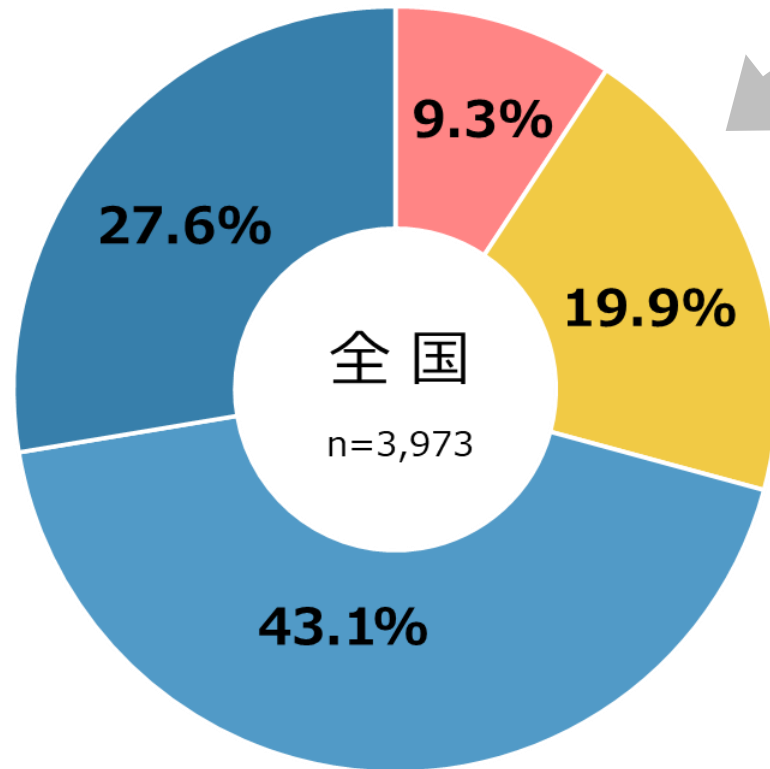
一部は自分たちで決めている
45.1% (n=8,033)

全く自分たちで決めていない
22.3% (n=3,973)

1-3. 子どもたちの部活動における主体性②決めていない子ども

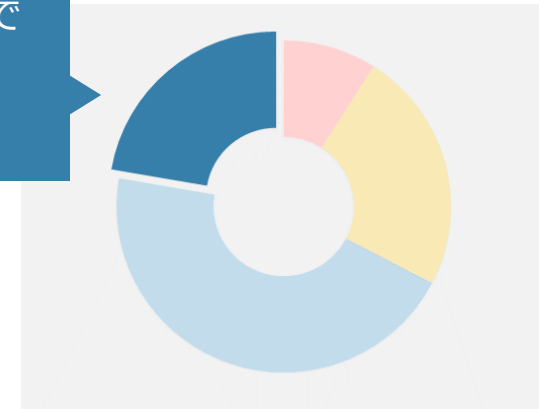
Q. 練習時間や内容、試合のメンバーなど、部活動において自分たち（生徒同士）で**決めたい**と思いますか？

Q. 現在、練習の時間や内容、試合のメンバーなど、自分たち（生徒同士）で**決めて**いることはありますか？



- ほとんど全部、自分たちで決めたい
- 一部は、自分たちで決めたい
- 半分程度は、自分たちで決めたい
- 全く、自分たちで決めたくない

全く、自分たちで決めていない
22.3%



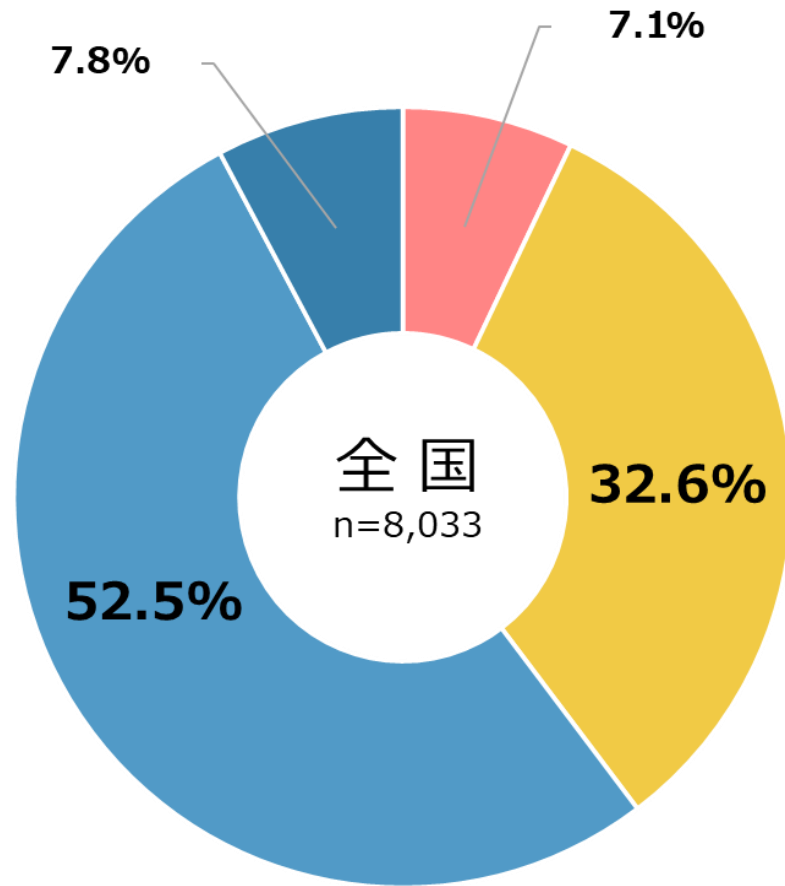
部活動の現状について

自分たちで全く決めていない子ども
3,973人（全体データの22.3%）のうち

70%以上の子どもたちが
より主体的に取り組みたいと考えている

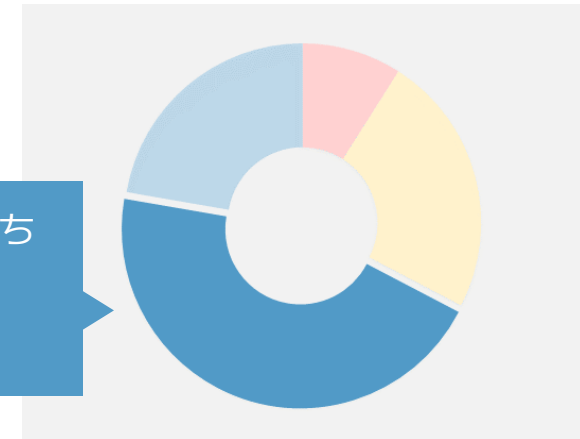
1-3. 子どもたちの部活動における主体性③一部決めている子ども

Q. 練習時間や内容、試合のメンバーなど、部活動において自分たち（生徒同士）で決めますか？



- ほとんど全部、自分たちで決めたい
- 半分程度は、自分たちで決めたい
- 一部は、自分たちで決めたい
- 全く、自分たちで決めたくない

Q. 現在、練習の時間や内容、試合のメンバーなど、自分たち（生徒同士）で決めていることはありますか？



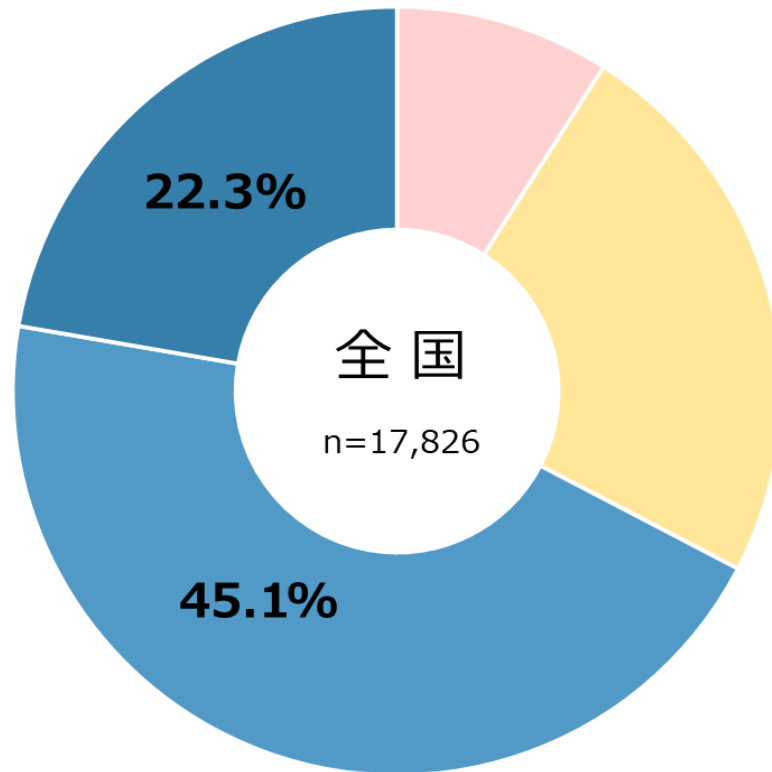
部活動の現状について

一部は自分たちで決めている子ども
45.1%（8033人/回答数）のうち

40%以上の子どもたちが
より主体的に取り組みたいと考えている

1-3. 子どもたちの部活動における主体性④これから

Q. **現在**、練習の時間や内容、試合のメンバーなど、自分たち（生徒同士）で**決めていること**はありますか？



全く自分たちで決めていない
22.3% (n=3,973)

一部は自分たちで決めている
45.1% (n=8,033)

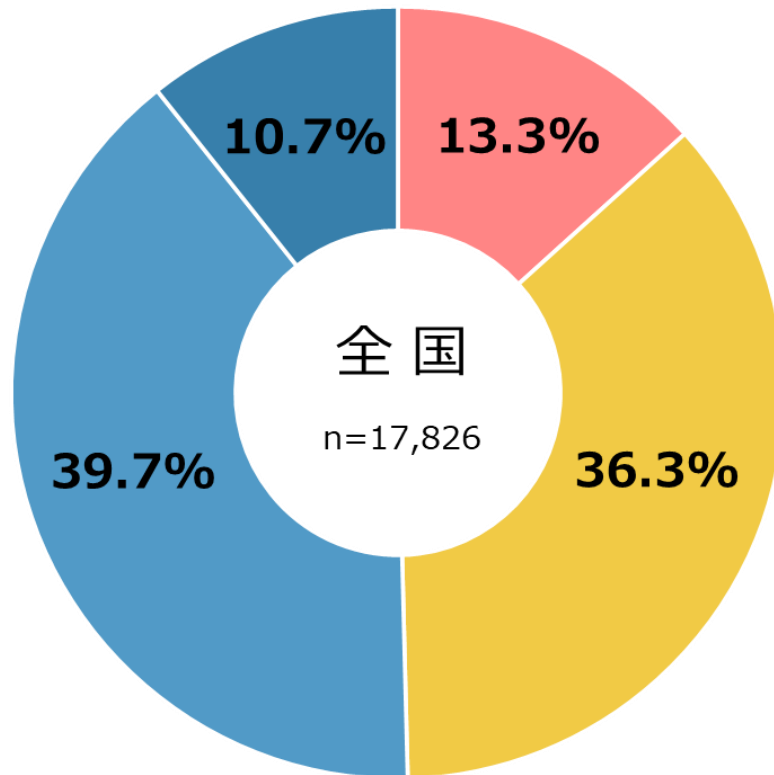


「全く自分たちで決めていない」
「一部は自分たちで決めている」
全体の67.4%のうち

50.5%が、より主体的に取り組みたいと思っている

1-3. 子どもたちの部活動における主体性⑤これから

Q. 練習時間や内容、試合のメンバーなど、部活動において自分たち（生徒同士）で**決めたい**と思いますか？



■ ほとんど全部、自分たちで決めたい
■ 一部は、自分たちで決めたい

■ 半分程度は、自分たちで決めたい
■ 全く、自分たちで決めたくない

ほとんど全部、自分たちで決めたい
13.3% (n=2,372)

半分程度は、自分たちで決めたい
36.3% (n=6,471)

一部は、自分たちで決めたい
39.7% (n=7,081)

全く、自分たちで決めたくない
10.7% (n=1,902)

90%程度の子どもたちは
程度に違いがあれ、自己決定の意思がある

イマチャレアンケート調査結果1-4.

**子どもたちの
文化・スポーツ活動に対する
ニーズについて**

1-4.子どもたちの文化・スポーツ活動に対するニーズについて

質問の意図

子どもたちにとっての理想の文化・スポーツ環境を実現していくために子どもたちには、どんなニーズがあるのだろうか？

1-4の発表データ

- ・スポーツ・文化活動がより満足できる活動になるための要因に関するデータ

1-4.子どもたちの文化・スポーツ活動に対するニーズについて

子どもたちのニーズに関する質問内容

Q. どんな文化・スポーツ活動なら、より満足できるものになると思いますか。
(最大3つまで回答可能)

■回答の選択肢

- ①専門的で丁寧な指導を受けられる
- ②より勝利を目指す活動にする
- ③健康状態を配慮しながら指導してもらえる
- ④やりたい種目を選択できる
- ⑤一種目だけではなく複数の活動に参加できる
- ⑥勝敗や入賞などにこだわらず、気軽に楽しめる
- ⑦他校の友達ができる
- ⑧活動内容などを生徒同士で決められる
- ⑨いろんな世代や年齢の人と一緒に活動ができる

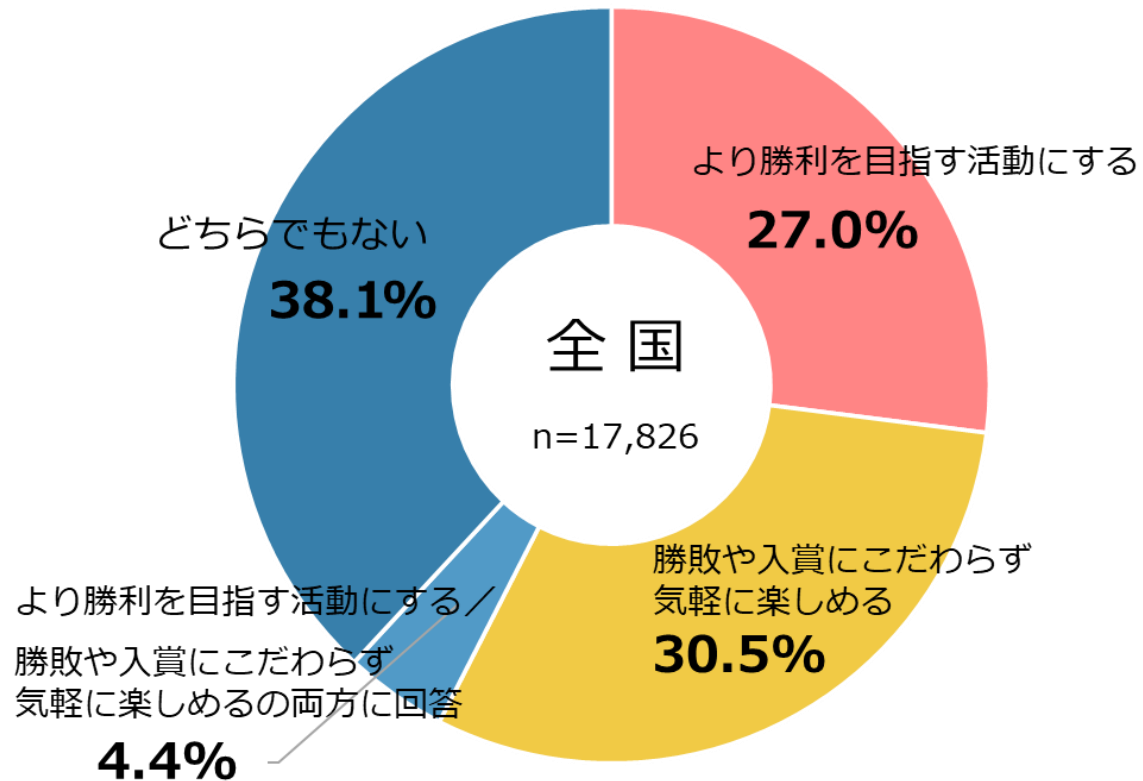
②より勝利を目指したい

⑥勝敗や入賞にこだわらず、気軽に楽しめる

のどちらかに回答した生徒のデータを集計

1-4.子どもたちの文化・スポーツ活動に対するニーズについて

Q. どんな文化・スポーツ活動なら、より満足できるものになると思いますか。
(最大3つまで回答可能)



より勝利を目指したい生徒の割合
27.0% (n=5,563)

より気軽に楽しみたい生徒の割合
30.5% (n=6,191)



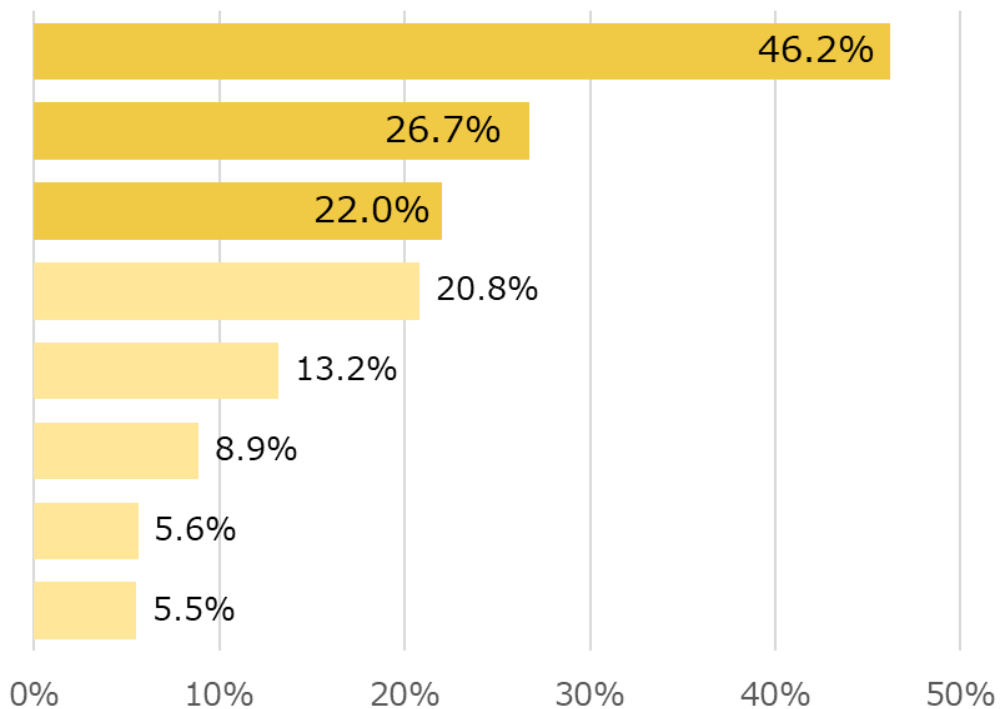
子どもたちのニーズは
二極化している

1-4.子どもたちの文化・スポーツ活動に対するニーズについて

「②より勝利を目指したい」 と回答した生徒がその他に求めていることは？

Q. どんな文化・スポーツ活動なら、より満足できるものになると思いますか。
(最大3つまで回答可能)

競技志向の子どもたちが部活動に求めること



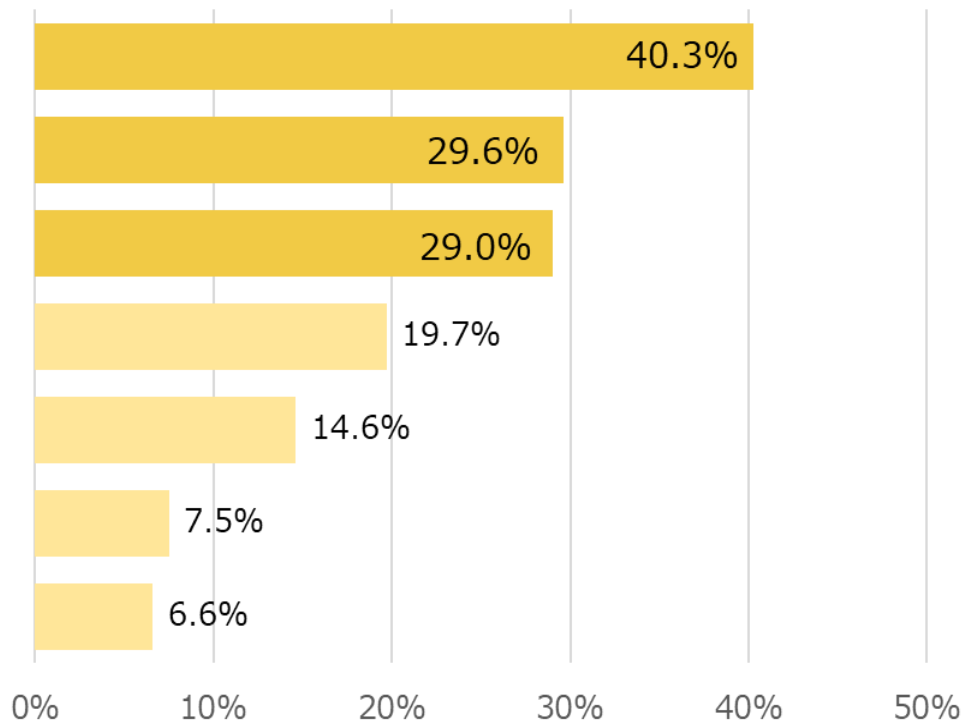
1. **専門的で丁寧な指導を受けられる：46.2%**
2. **健康状態を配慮しながら指導してもらえる：26.7%**
3. **他校の友達ができる：22.0%**
4. やりたい種目を選択できる：20.8%
5. 勝敗や入賞にこだわらず、気軽に楽しめる：13.2%
6. 活動内容などを生徒同士で決められる：8.9%
7. 一種目だけではなく複数の活動に参加できる：5.6%
8. いろんな世代や年齢の人と一緒に活動ができる：5.5%

1-4.子どもたちの文化・スポーツ活動に対するニーズについて

「⑥勝敗や入賞にこだわらず、気軽に楽しめる」と回答した生徒がその他に求めていることは？

Q. どんな文化・スポーツ活動なら、より満足できるものになると思いますか。
(最大3つまで回答可能)

エンジョイ志向がある子どもたちの満足理由



1. 健康状態を配慮しながら指導してもらえる：40.3%
2. やりたい種目が選択できる：29.6%
3. 専門的で丁寧な指導を受けられる：29.0%
4. 他校の友達ができる：19.7%
5. 活動内容などを生徒同士で決められる：14.6%
6. 一種目だけではなく複数の活動に参加できる：7.5%
7. いろんな世代や年齢の人と一緒に活動ができる：6.6%

「②より勝利を目指したい」と回答した子どもたちと「⑥勝敗や入賞にこだわらず、気軽に楽しめる」と回答した子どもたちには、求めていることに違いがみられる。

イマチャレアンケート調査結果1-5.

子どもたちの地域活動への意欲について

1-5.子どもたちの地域活動への意欲について

質問の意図

子どもたちにとっての理想の文化・スポーツ環境を実現していくために
そもそも、地域での活動をどう考えているのだろうか？

また、地域ではどんな活動をしたいと考えているのだろうか？

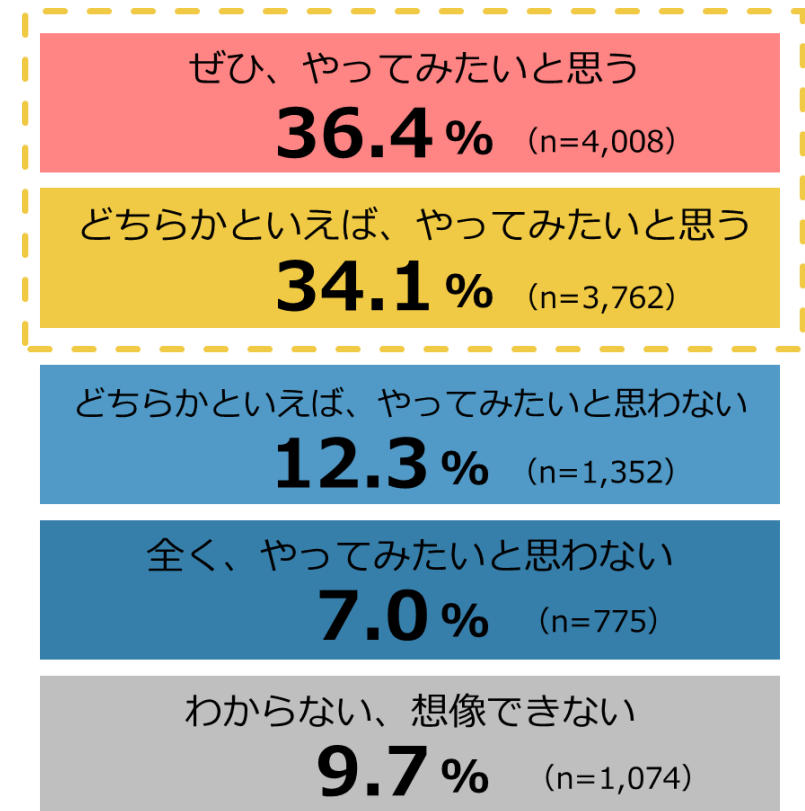
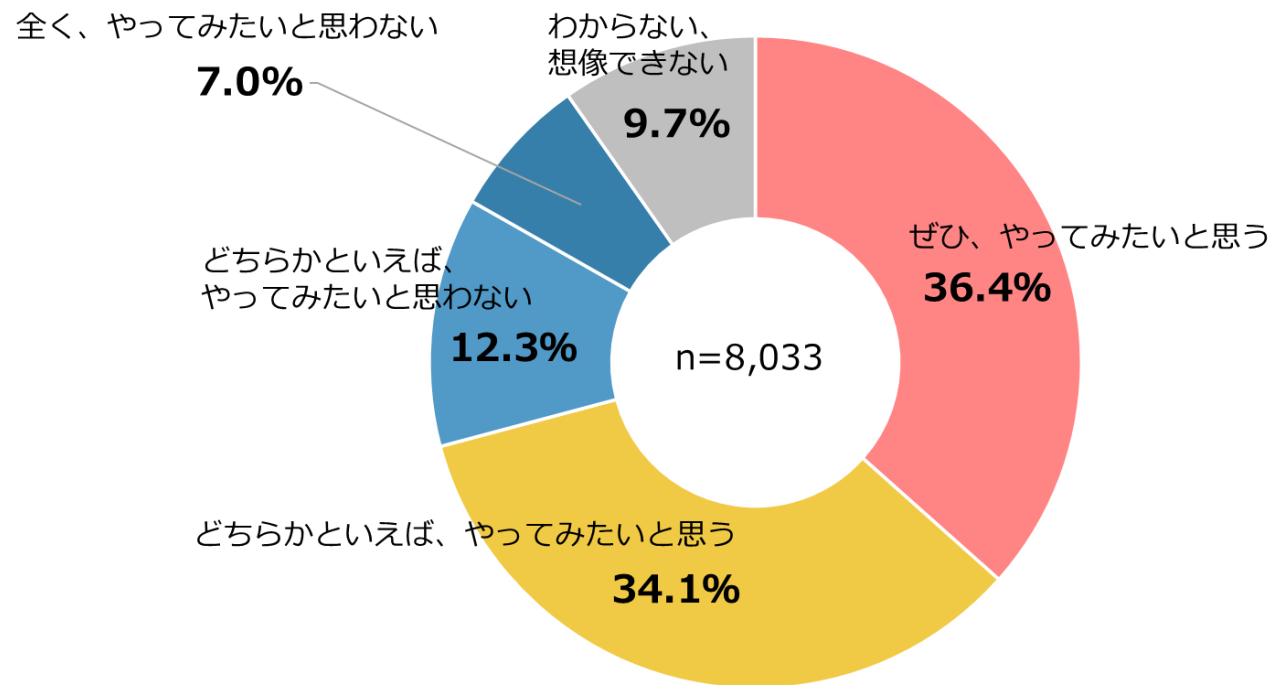
1-4の発表データ

- ・ スポーツ・文化活動がより満足な活動になるための要因に関するデータ
- ・ 部活動に所属していない生徒が部活動に入りたくなる要因に関するデータ

1-5.子どもたちの地域活動への意欲について（部活動に所属している生徒）

部活動に所属している生徒の回答

Q. 同じ地域で、別の学校の生徒と文化・スポーツ活動を一緒に活動したいと思いますか？

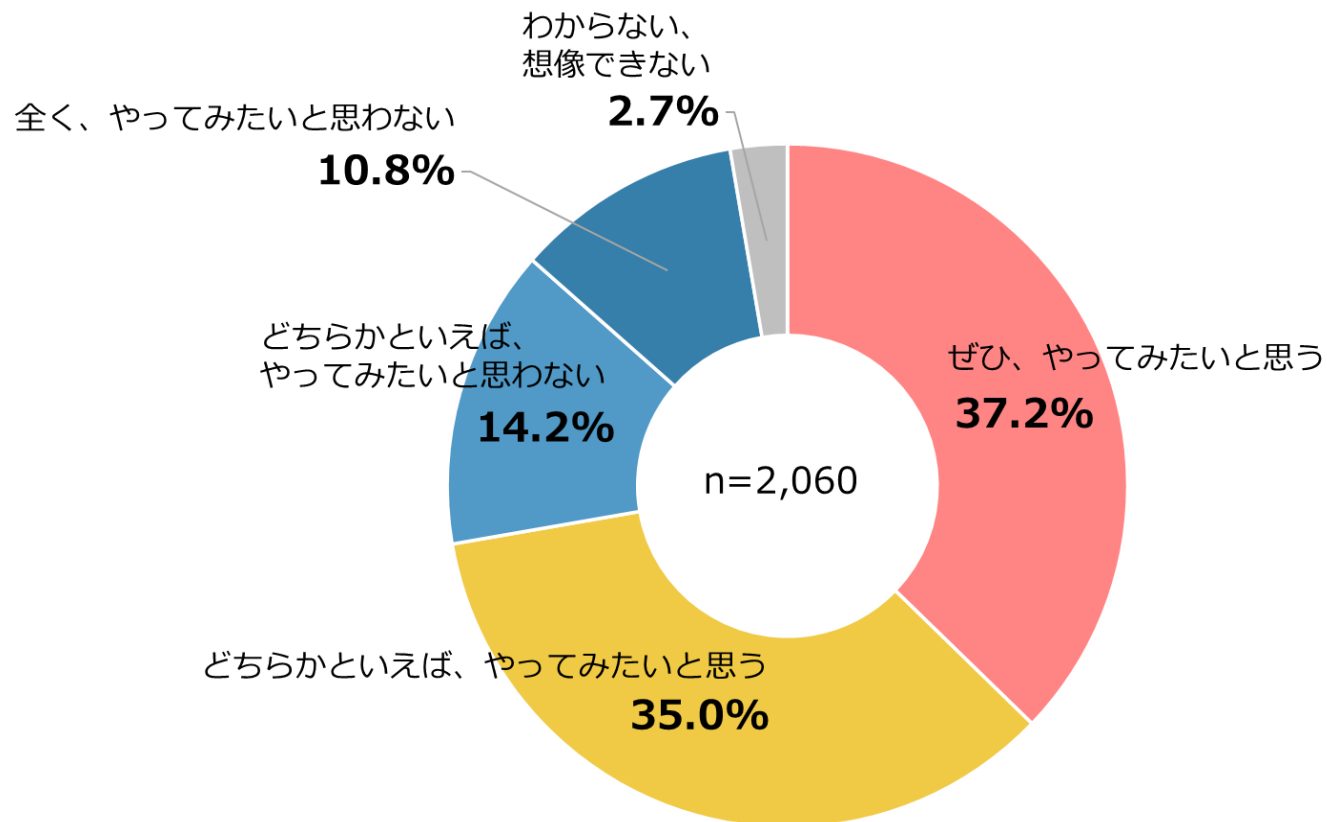


部活動に所属している子どものうち、**70%を超える**子どもたちが地域での文化・スポーツ活動に対して意欲的だということが分かった

1-5.子どもたちの地域活動への意欲について（部活動に入っていない生徒）

部活動に所属していない生徒の回答

Q. 同じ地域で、別の学校の生徒とスポーツ・文化活動を一緒に活動してみたいと思いますか？

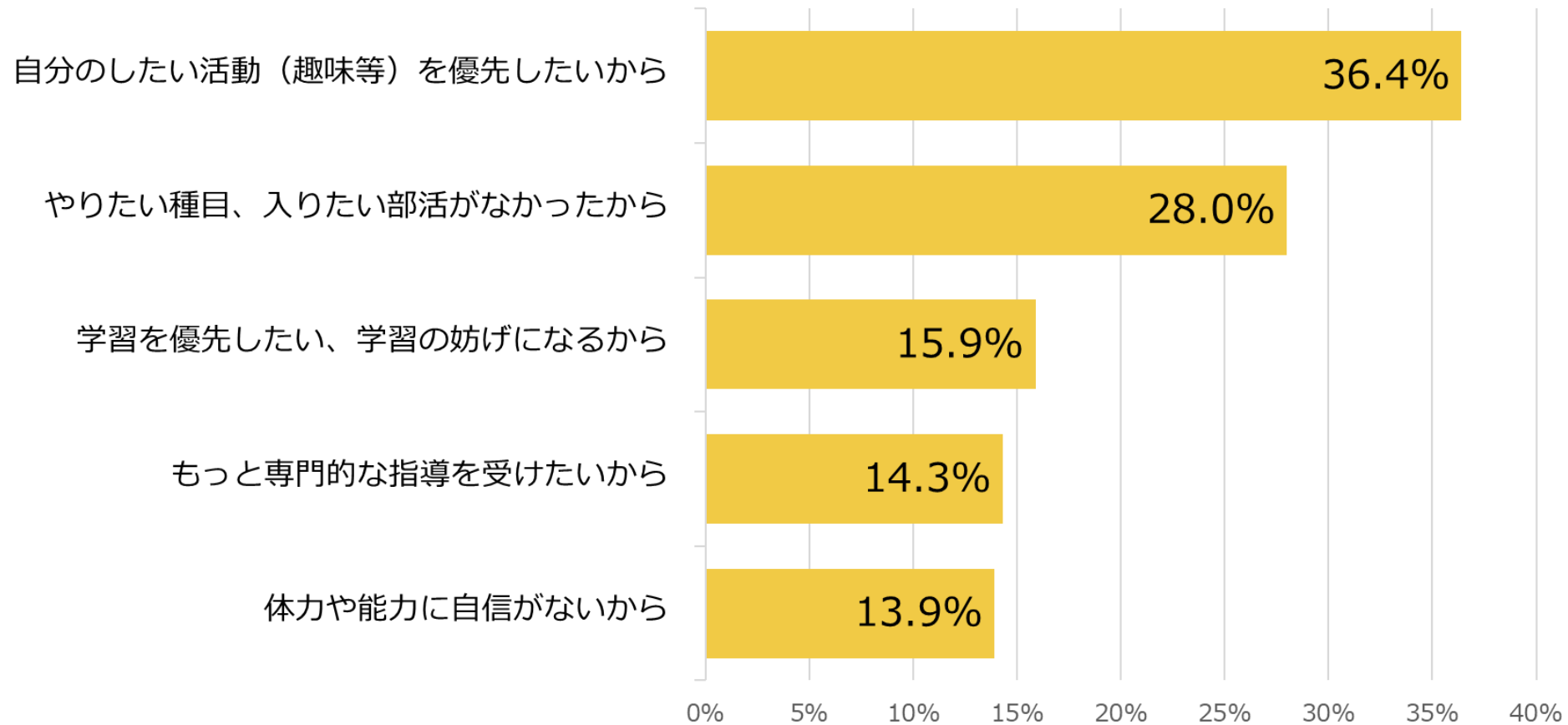


部活動に所属していない子どものうち、**70%を超える**子どもたちが地域での文化・スポーツ活動に対して意欲的だということが分かった

1-5.子どもたちの地域活動への意欲について（部活動に入っていない生徒）

部活動に所属していない生徒の回答

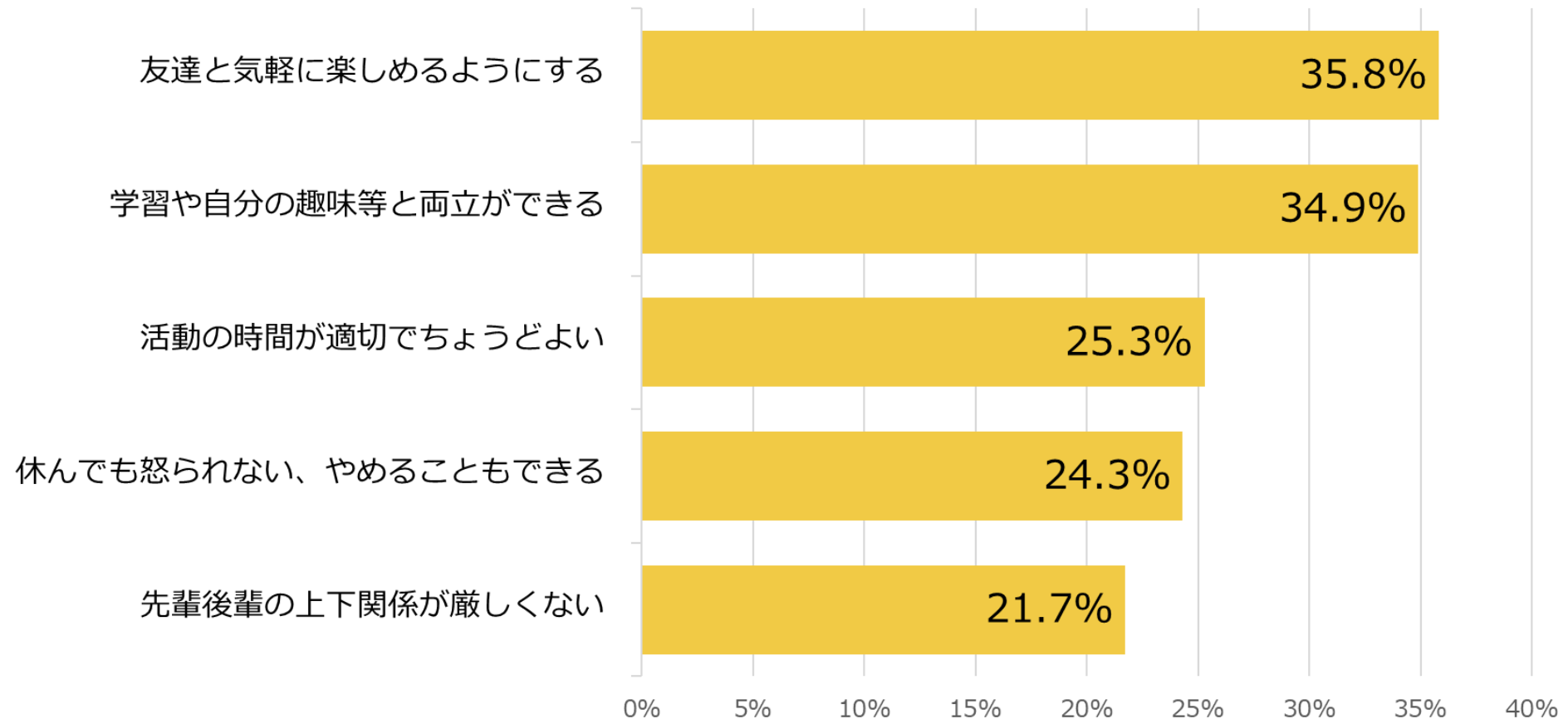
Q. 部活動に入らなかった理由を教えてください。(n=4,733)



1-5.子どもたちが入りたいと思う部活動のあり方について

部活動に所属していない生徒の回答

Q. どんな部活動なら入ってみたいですか？ (n=4,732)



部活動に所属していない子どもたちの「入らない理由」と「入りたい要因」を考慮すれば
地域の活動に参加する可能性が大きいと考えられる。

イマチャレアンケート調査結果【I】

生徒アンケートのまとめ

1-1 : 「部活動の地域移行」が推進されていることを**認知している**（よく知っている・やや知っていると回答）**生徒は28.3%**

1-2 : 運動部 + 学校以外の習い事の**年間活動時間数は744h/年**（概算）。年間の授業時間数（約845時間）に近い時間を費やしている。

1-3 : 部活動において「全く自分たちで決めていない」「一部は自分たちで決めていいる」全体の**67.4%のうち50.5%はより主体的に取り組みたい**と思っている

1-4 : 子どもたちの文化・スポーツ活動に対するニーズは「**より勝利を目指したい生徒（27%）**」と「**より気軽に楽しみたい生徒（31%）**」で二極化している。

1-5 : 現在部活動に所属している生徒、所属していない生徒も、**地域で活動してみたい生徒は70%以上**。

イマチャレアンケート調査結果【概要Ⅱ】

【2】教職員・保護者が考える部活動の地域移行

1. 教職員のアンケート結果
2. 保護者のアンケート結果
3. 生徒・保護者・教員の回答比較

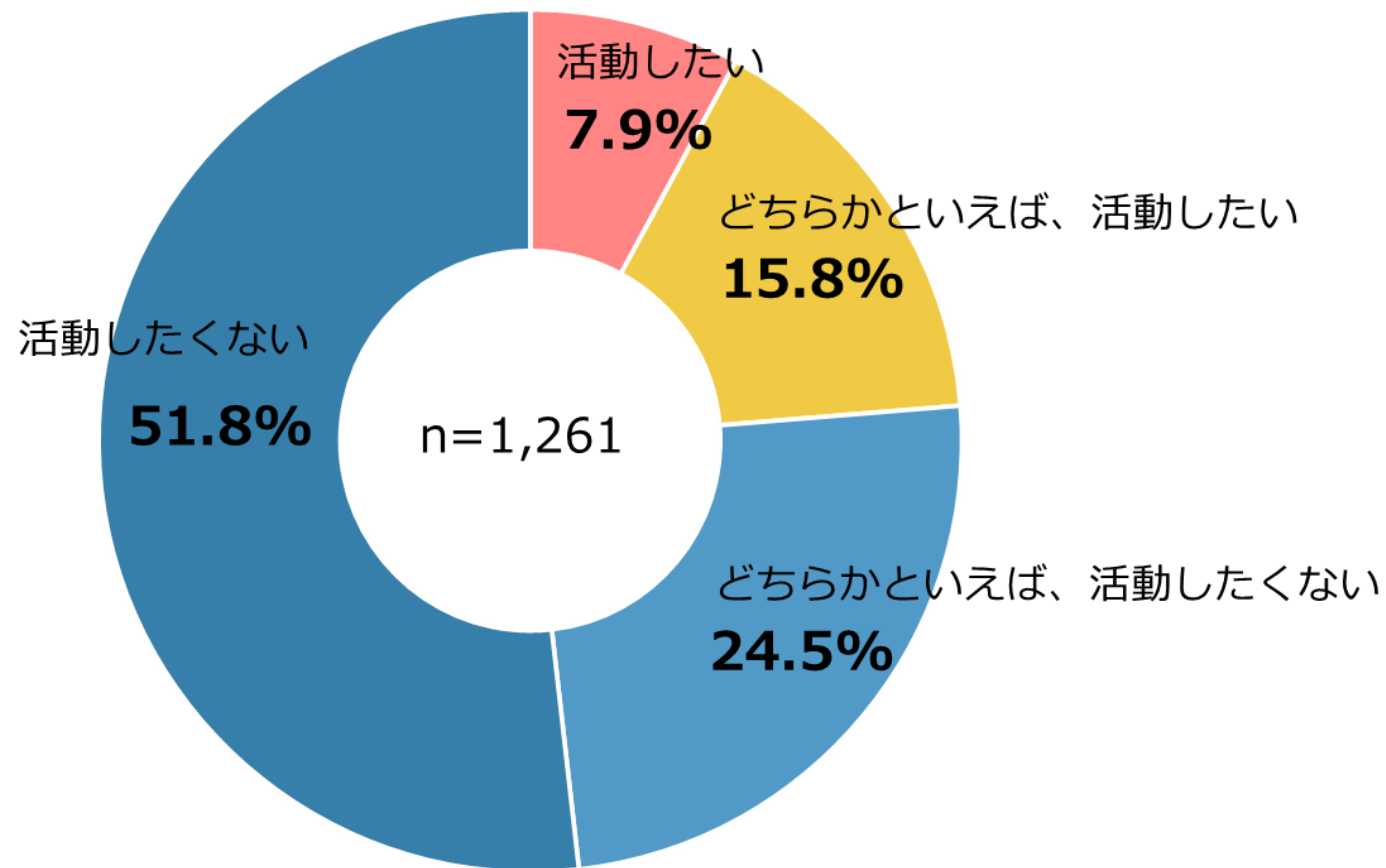
イマチャレアンケート調査結果2-1.

教職員のアンケート結果（抜粋）

2-1 教職員のアンケート結果

Q. 今後、「休日」の部活動が地域移行された場合に、地域指導者として活動を行いたいですか？

(n=1,261)

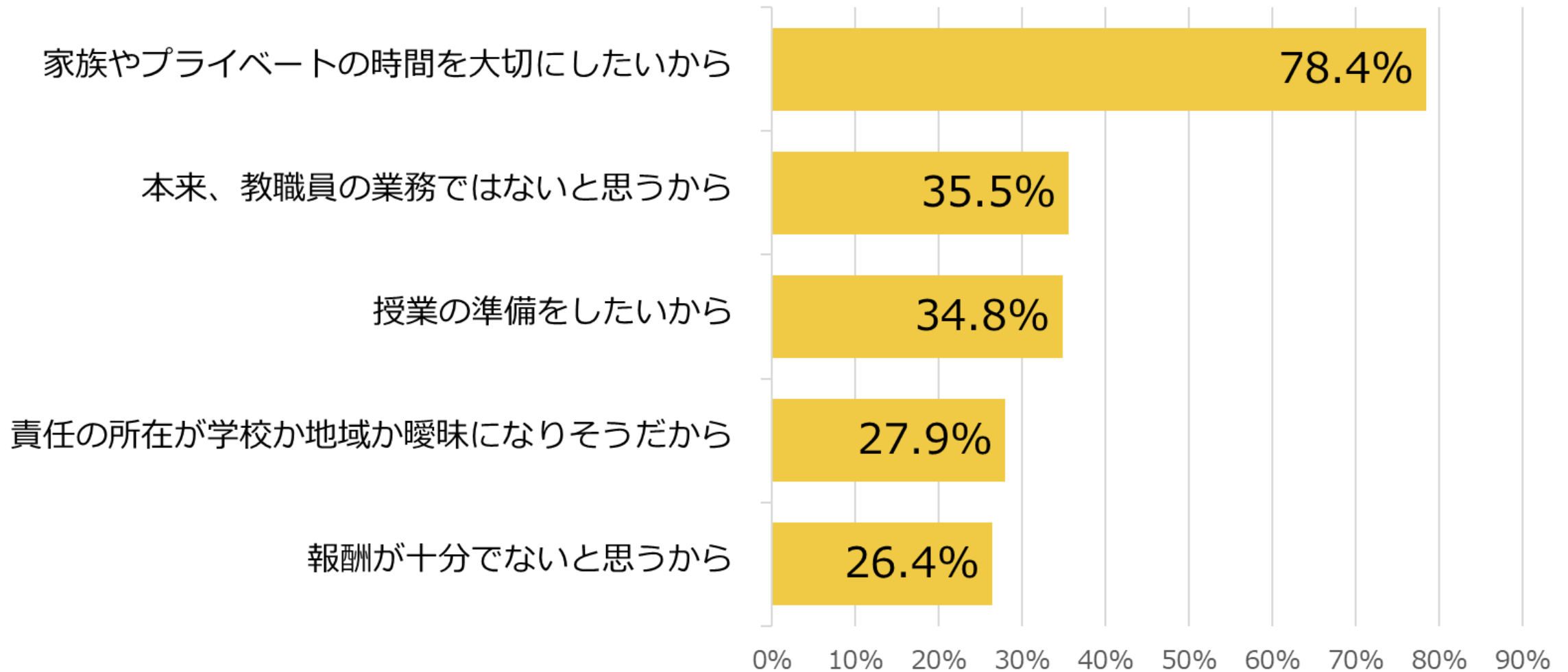


75%以上の教職員が「どちらかと言えば、活動したくない」「活動したくない」と回答。

2-1 教職員のアンケート結果

Q. 地域指導者として活動したいと思わない理由を教えてください。

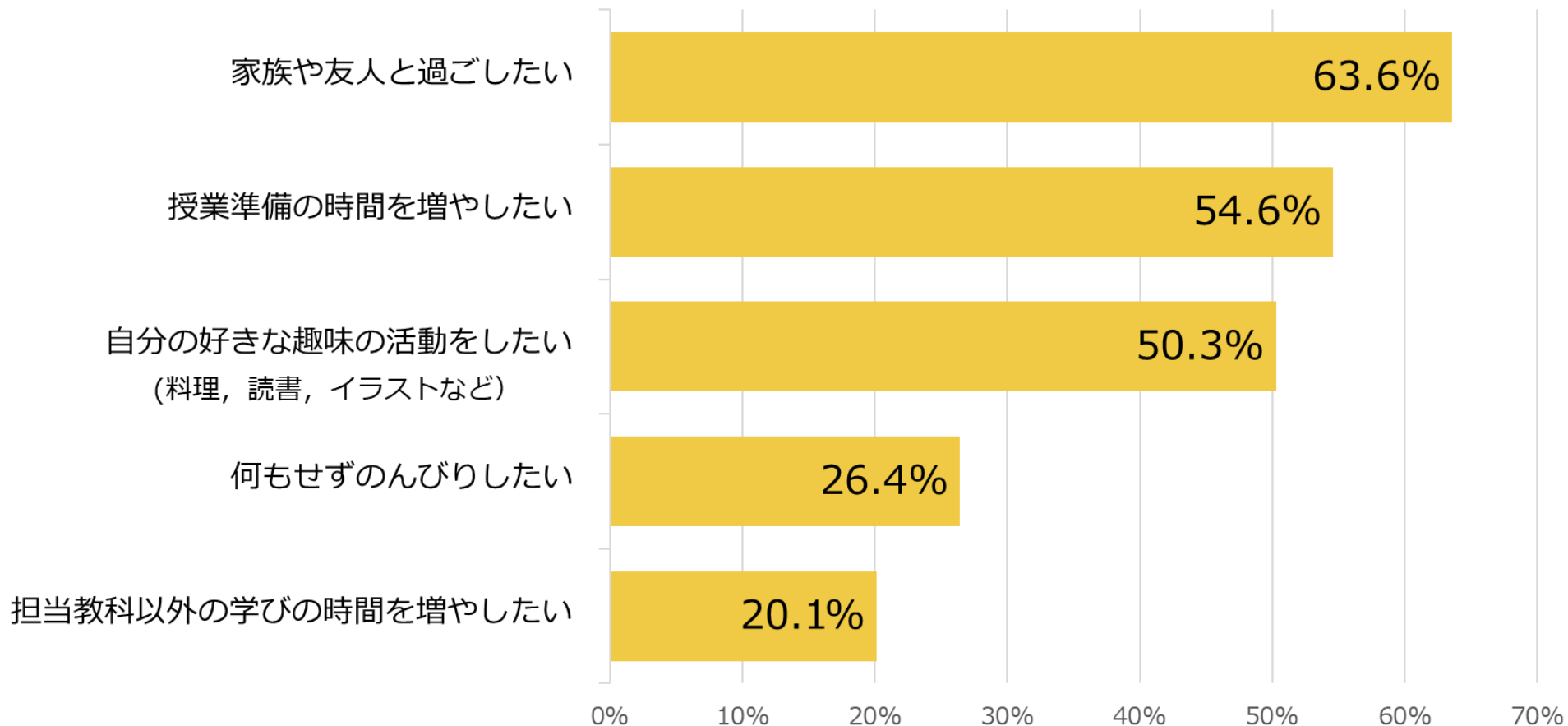
(n=943)



2-1 教職員のアンケート結果

Q. 部活動指導がなくなった時に、どのようなことに時間を割きたいですか？

(n=1,261)

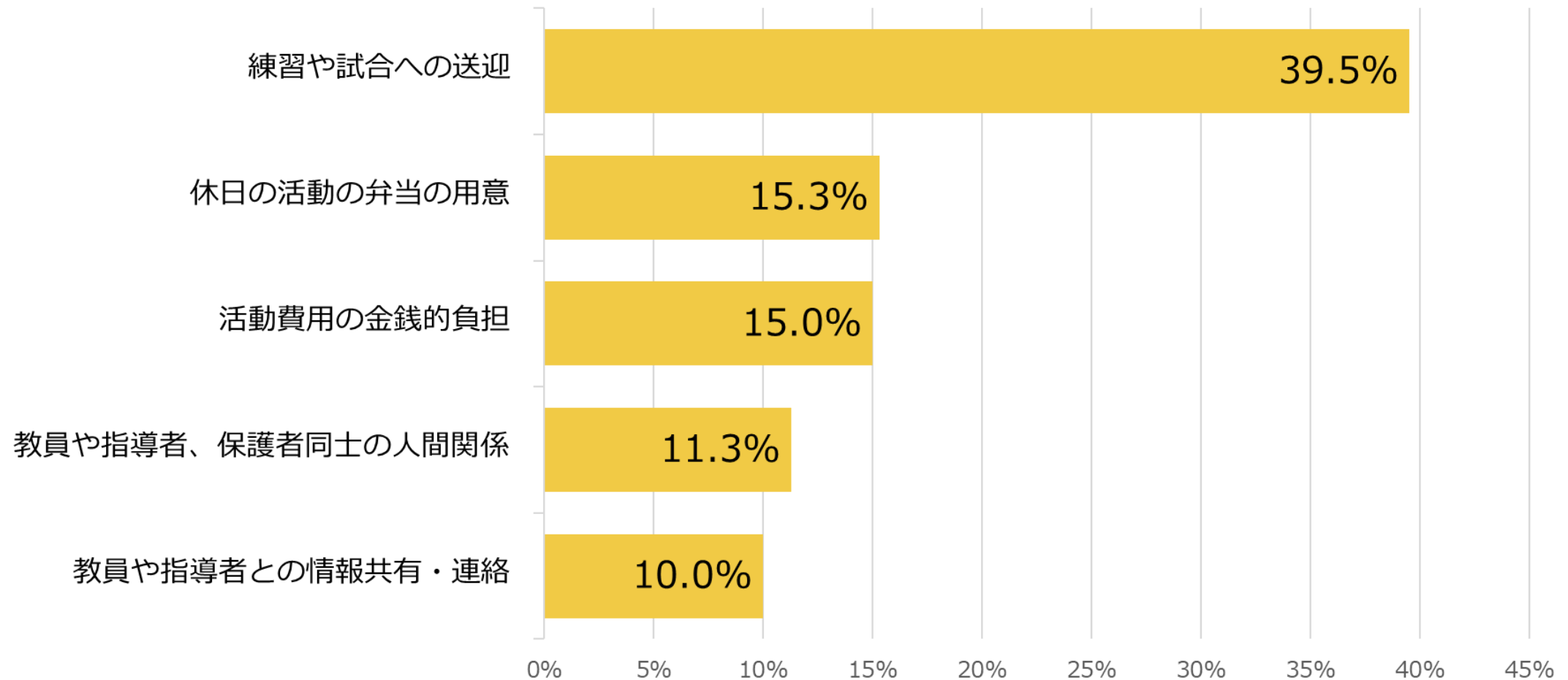


イマチャレアンケート調査結果2-2.

保護者のアンケート結果（抜粋）

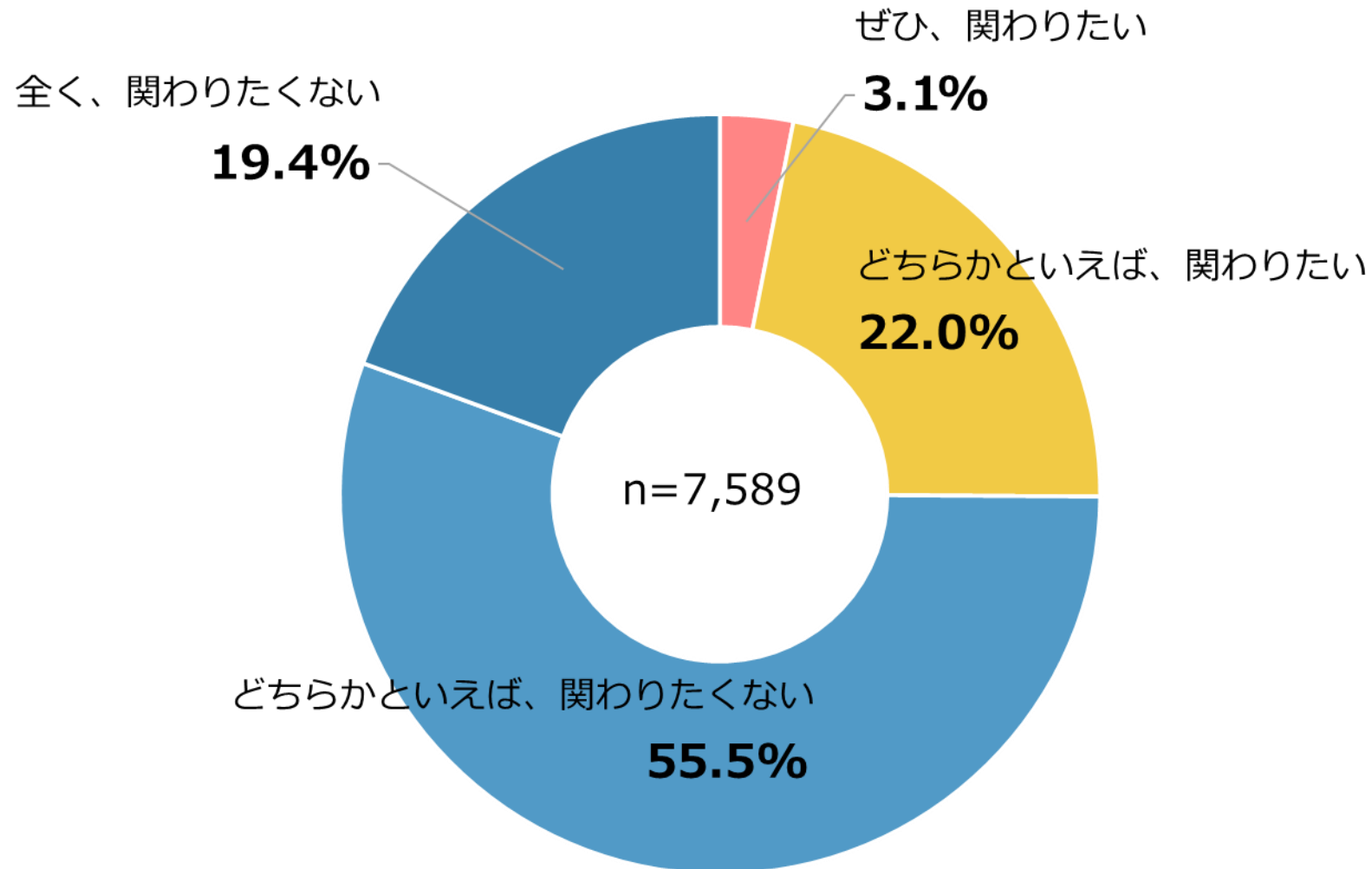
2-2 保護者のアンケート結果

Q. 部活動に関して、保護者の皆さんが負担だと感じることはありますか？
(n=6,545)



2-2 保護者のアンケート結果

Q. お願いされたら、地域の文化・スポーツ活動に指導者や見守り、サポーターとして関わりたいと思いますか？



イマチャレアンケート調査結果2-3.

**生徒・教職員が考える
理想の文化・スポーツ活動のギャップ**

2-3 生徒・教職員が考える理想の文化・スポーツ活動のギャップ

部活動への参加目的の比較

	生徒 (n = 17,739)		教職員 (n = 988)
仲の良い友達と一緒に活動できる	39%	>	14%
新しい友達（先輩・後輩など）をつくれる	18%		23%
技術や体力の向上ができる	44%		50%
大会・コンクールで良い成績を収められる	22%	>	7%
リーダーシップを学べる	1%		4%
目標に向かって、やり抜く力が身につく	21%	<	73%
礼儀やマナーが身につく	10%	<	68%
練習を楽しめる	46%	>	19%

不等号 (>)
10%以上差がある項目

2-3 生徒・教職員が考える理想の文化・スポーツ活動のギャップ

より満足する活動になるためには？

	生徒 (n = 17,821)		教職員 (n = 1261)
専門的で丁寧な指導を受けられる	41%	<	70%
より勝利を目指す活動にする	31%	>	6%
健康状態を配慮しながら指導してもらえる	36%	>	26%
やりたい種目が選択できる	31%	<	44%
一種目だけではなく、複数の活動に参加できる	9%		18%
勝敗や入賞などにこだわらず、気軽に楽しめる	35%	>	21%
他校の友達ができる	24%	>	10%

不等号 (>)
10%以上差がある項目

生徒は友達づくりやスポーツ自体を楽しむ、良い成績を収めることを求めている
一方、教職員はより教育的な役割を部活動に求めている

イマチャレアンケート結果の【概要Ⅲ】

部活動改革に向けた 今後の提言・メッセージ

全体に向けた提言

①子どもたちの尊重

⇒子どもたちが意見を言える・尊重される部活動改革を推進する。

部活動改革を推進するにあたり、継続的に子どもたちへのアンケートやヒアリング、意見交換を実施し、すべての子どもたちの意見が尊重される改革が必要である。

②文化・スポーツ活動の変革

⇒子どもたちの文化・スポーツ活動の「質（主体性）」・「量（時間）」の適正化を図る。

現在の部活動をそのまま地域に移行するのではなく、改革を機に、活動の「質」、すなわち子どもたちを中心にした主体的な活動内容にし、活動の「量」、すなわち活動時間を適正化していく必要がある。

③多様な選択肢の創出

⇒子どものニーズ（競技志向orエンジョイ志向）に合わせた多様な選択肢を提供する。

子どもたちが求める文化・スポーツ活動は「競技志向」と「エンジョイ志向」に二極化している。これまでの「部活動」のイメージに囚われず、子どものニーズに応じた多様な環境を、地域を巻き込んで構築していく必要がある。

自治体・教育委員会へのメッセージ

自治体・教育委員会に向けて

- ①スケジュールを定めた「部活動地域移行の推進計画」等を作成し、周知していく
- ②子ども、保護者、地域住民の部活動改革に関する認知度の向上や意識改革を促進するため、多様な広報手段による継続的な情報発信を行う
- ③すべての子どもたちを対象にしたアンケートを継続的に実施する
- ④スポーツ庁・文化庁のガイドライン（学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン）を遵守し、適正な時間・日数で活動が実施されるように支援する
- ⑤部活動に入っていない子どものニーズも含め、多様な文化・スポーツ環境の構築を目指す

学校・教職員に向けて

- ①各自治体の改革方針や推進計画について、子ども・保護者への積極的な情報発信を行う
- ②文化・スポーツ活動への子どもたちの積極的な関与を促し、より主体的な活動を目指す。まずは「自分たちで何を決めたいのか」の話し合いから。
- ③スポーツ庁・文化庁のガイドライン（学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン）を遵守し、適正な活動時間・日数での部活動を実施する

団体及び地域の方へのメッセージ

団体・地域の方々に向けて

- ①子どものニーズに合わせた多様な文化・スポーツ環境の構築を目指す
- ②新たな地域クラブ活動においても、スポーツ庁・文化庁のガイドライン（学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン）を遵守し、適正な時間・日数で活動を行う
- ③地域住民の活動の関わり方においても「指導者」「見守り」「共に活動する」など多様な形態が考えられるため、より多くの住民が積極的に参画できる形態を模索していく

保護者に向けて

- ① スポーツ庁/文化庁及び各自治体からの情報発信に関心を持つ
- ② 保護者自身が経験した「部活動」のイメージだけに囚われず、子どもたち一人ひとりの声を丁寧に聞く
- ③ 新たな地域の文化・スポーツ環境づくりに持続可能な形で参画する

子どもたちへのメッセージ

子どもたちに向けて

- ①社会の変化やあり方に関心を持ち、部活動の改革も自分ごととして考えていこう！
- ②「自分たちが楽しむ環境は自分たちで創っていく」という気持ちを忘れずに、自分の気持ちや意見をしっかりと伝えあっていこう！
- ③自分のやりたいことに加え、他の学校や異なる世代の人たちとの交流にも積極的にチャレンジしていこう！